

A 日程新規高卒者用参考問題 国語

1 次の傍線部の漢字の読みがなをひらがなで書きなさい。

- (1) 哀悼の意を表す (2) 相手との折衝に当たる (3) 公園の片隅 (4) 健やかなわが子
 (5) 太陽の光が屈折する

2 次の傍線部のひらがなを漢字で書きなさい。

- (1) こまった人を助ける (2) 彼の説明になつとくする (3) すなおにしたがう
 (4) 作品が高くひょうかされる (5) 畑をたがやす (6) こうか的な練習方法
 (7) 物事のぜひを議論する (8) いかなるくなんにも立ち向かう
 (9) にんしきを改める (10) 新聞をくばる (11) より広いしやに立つ

3 次の漢字の「かんむり」をひらがなで答えなさい。

- (1) 花 (2) 家 (3) 京 (4) 等 (5) 写

4 次の意味を表す四字熟語を語群から記号で選び、 に当てはまる漢字を答えよ。

- (1) 飾り気がなくまじめで、心身が強くてたくましいさま。
 (2) わずかな差で、きわめて危険な状態に陥りそうなこと。
 (3) 自分のしたことの報いが、自分に返ってくること。
 (4) 助けてくれる人もなく、一人ぼっちで頼れるものがないさま。

語 群

- | | | | | | |
|---|-----|---|-----|---|-----|
| ア | 一心乱 | エ | 立無援 | キ | 進月歩 |
| イ | 自得 | オ | 危機 | ク | 髪 |
| ウ | 質実剛 | カ | 前未聞 | ケ | 単刀直 |

5 次の文を読んであとの問いに答えよ。

私が大学を上智に決めたのは、縁があつて受験したためというだけで、それほど特別な理由があつたわけではない。今とは違って、当時の上智大学は有名大学でも何でもなかったから、入試に落ちる気づかいなどない。だから他はいつさい受験しなかった。国立大学の試験は、上智の試験の二か月も後だったから、受けようと思えば受けられたのだが、「これもご縁なのだから、まあいいや」というような感じで受験しなかった。

こうして英文科に入ったのだが、勉強しているうちに、やはり本場で勉強してみたくなる。そうするとまたうまい具合に、留学のチャンスが回ってきた。勇躍して行つて帰つてくると、ちょうど大学がどんどん大きくなっているときで、教えるほうの口には事欠かなかった。すぐさま「お前、教えてみる」と声がかかつて、そのまま現在に至っている。職業を変えようとか、転職しようなどとこれっぽちも考えたことはなく、無事四十五年の教師生活を終えた。

(一)、私の場合は、教えるということよりも、本を読んで研究するほうが好きだった。研究生活を送るためには、束縛や拘束はなるべくないほうがいい。わずらわしいことに忙殺されると、研究する時間がなくなってしまうからだ。そうすると、勝手のわかつた大学にいたほうが都合がよかつたのだ。

ある意味では、あまり面倒なことは考えず、自分の好きなことだけをしてきたから続けられたのかもしれない。毎日束縛されないための努力はしたけれども、それ以外のことについては、私はあまり難しく考えなかつた。好きな研究に費やす時間の量をいかに多くするかに頭を悩ませたことはあつただるうけれども、他のことについて深刻に悩んだことはあまりない。

(二)、ある意味ではいい加減な男だと思つし、また難しい男でも何でもない。物事を難しく考えないほうだから、何事についても長続きしたのではないかと思う。

万年筆にしても、三十年ぐらい前のものを使っているけれども、一向に気にならない。作家の人や何かの中には、しょっちゅう替えないと書けないという人がいるようだけど、紙に文字を書くぐらいだから、そうそうすり減るものでもない。ことほどさように、何だかんだ言いながら、けっこう何でも長持ちさせるタイプなのだ。

(三)、書道にしても、もう二十年以上も続けている。どうして続けられるのかというと、難しい や規 則を設けず、割と気楽に、ある意味ではいい加減にやっているとあるからだろう。週に三回練習することにしてはいるけれども、都合が悪くなれば休むだけだと考えている。だからまるまる一か月休んで平気で、翌月から再び始めるといった具合である。こうしてもう二十年以上も続けている。

何事も気楽に始めるのが、長続きさせる一番の方法だと思つ。絶対に練習は休まないぞ、というようにあまり張り切つて始めるから、一回休むと糸が切れたようになってやめてしまうことになるのだ。私の場合は、たいいていのことは気楽に始めて続けている。そうしているうちにいつの間にか、いい線まで行つてしまうようなのだ。

書道も、実質的には練習量が足りないわけだから、プロの書家から見れば大したことはないのだろうが、それでも先生から「最近よくなってきました。線がいいですね」などとほめられるようになった。ほめられるとその気になるほうなので、またうれしくなつて続けるという状態なのである。休みが多いとはいへ、原則週三回を二十年も続けていれば、普通の人よりは上手になるだろうし、またそれだけの自信も生まれてくる。

(渡部昇一 『自分の壁を破る人破れない人』より)

(1) _____ には、束縛の類義語が入るが、漢字二字で答えよ。

(2) ()、()、()、()、()、()、()、()に入る語句を次の中から選び記号で答えよ。

イ ところで 口 あるいは 八 たたとえば ニ だから